

## 第9回

# 立川市行財政問題審議会

令和7年7月23日（水）

立川市市長公室改革推進課

## 第9回立川市行財政問題審議会議事録

◆日時 令和7年7月23日（水）18時30分～20時30分

◆場所 立川市役所210会議室

◆出席者

### 【委員】

金井利之会長	佐藤主光副会長	朝日ちさと委員
西手正光委員	曾我好男委員	笹浪真智子委員
伊藤拓矢委員	黄毓巍委員	三浦康浩委員
藤原敏委員		

### 【市側】

小宮山克仁市長公室長  
下河辺康政策財務部長  
野口康浩改革推進課長  
五箇野豊企画政策課長  
徳丸祐豪財政課長  
矢島和晴企画政策課総合戦略係長  
坂東大樹公共施設マネジメント課計画推進係長

### 【事務局】

牛山亮太改革推進課政策調整係長  
市川啓改革推進課行革推進係長  
安藤悦宏改革推進課デジタル改革推進係長  
我妻翔平改革推進課行革推進係主任

◆次第

- 1 開会
- 2 議事
  - (1) 【報告】「第3次行政経営計画」について
  - (2) 【報告】「DX推進計画」について
  - (3) 【報告】令和6年度の決算の状況（速報値）
  - (4) 【協議】令和8年度の行財政運営の方向性と取組事項（案）
- 3 その他
- 4 閉会

◆資料

タイムスケジュール（本次第・裏面）

資料1 第9回行財政問題審議会 全体資料

資料2 立川市第3次行政経営計画

資料3 立川市DX推進計画 実施計画

資料4 令和6年度決算の概要（速報値）

午後6時30分 開会

○野口改革推進課長 定刻になりましたので、会議を開催したいと思います。伊藤委員がまだお見えになっていませんが、定刻ということで始めさせていただきます。

改めまして、皆様、こんばんは。本日は、お忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。この4月より改革推進課長に着任いたしまして、4年ぶりの復帰となりました野口でございます。なお、組織改正に伴い、財務部から政策財務部に変更がございましたのでご報告申し上げます。

また、本日の議題となっております、「立川市第3次行政経営計画」並びに「立川市DX推進基本計画」につきましては、本年第2回市議会定例会総務委員会において原案の報告を行いました。会長、副会長をはじめ委員のみなさまには策定にあたり多大なるご協力を賜り誠にありがとうございました。この場をお借りしてあらためて御礼を申し上げます。

それでは、本日、令和7年度になって初めての開催でございます。市側の出席者に前年度からの変更がありましたので、ご紹介をさせていただきます。これまでデジタル改革推進係については情報推進課の所属でしたが、令和7年度より改革推進課の所属となりました。また、公共施設マネジメント課が新設されまして、主に経営資源のモノの部分の部分を所管しております。それぞれ担当の係長が出席しておりますので、併せてご紹介をいたします。

○野口改革推進課長 それでは、まず企画政策課長よりお願いいたします。

○五箇野企画政策課長 この4月に企画政策課長に着任いたしました五箇野と申します。よろしくお願いいたします。

○野口改革推進課長 続きまして、改革推進課デジタル改革推進係長よりご挨拶をお願いします。

○安藤改革推進課デジタル改革推進係長 デジタル改革推進係長の安藤と申します。よろしくお願いいたします。

○野口改革推進課長 続きまして、公共施設マネジメント課計画推進係長よりご挨拶をお願いします。

○坂東公共施設マネジメント課計画推進係長 公共施設マネジメント課の計画推進係長の坂東と申します。よろしくお願いいたします。

○野口改革推進課長 なお、この委員の皆様で開催する行財政問題審議会については任期2年の最後となります。皆様から一言ずつご挨拶を最後にいただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、金井会長、進行をお願いいたします。

○金井会長 皆さん、こんにちは。

それでは、第9回立川市行財政問題審議会を開会したいと思います。

まず事務局から本日の流れについてご説明をいただければと思います。

○野口改革推進課長 それでは、申し訳ございませんが、着座にてご説明をさせていただきます。

議事の前に配付資料の確認をさせていただきます。

まず、次第とタイムスケジュール、資料1、第9回立川市行財政問題審議会全体資料、資料2、立川市第3次行政経営計画、資料3、立川市DX推進計画実施計画でございます。資料4、令和6年度の決算の状況（速報値）でございます。

以上、過不足などはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

続きまして、本日の議題についてご説明いたします。

まず、最初の議事（1）立川市第3次行政経営計画では、取組事項を中心に、委員の皆様か

らいただいたご意見、ご指摘を踏まえた計画素案からの変更点についてご報告いたします。

続きまして、議事（２）立川市DX推進計画実施計画では、DX推進計画のアクションプランである実施計画について委員からご指摘いただき、見直した点について改めてご説明をいたします。

続きまして、議事（３）令和６年度の決算の状況（速報値）についてご報告をいたします。

最後に、本日のメインのテーマでございます。令和８年度の行財政運営の方向性と取組事項（案）では、令和８年度の行財政運営に関する展望、政策を展開する上で重視する視点等についてご意見、ご協議をお願いしたいと考えております。

流れにつきましては以上でございます。

○金井会長 ということでありまして、議事の４が一番メインのテーマということになります。

それでは、早速議事（１）の第３次行政経営計画についてお願いします。

○野口改革推進課長 それでは、議事（１）立川市第３次行政経営計画についてご説明いたします。

計画期間における取組事項につきましては、計画の31ページ以降にお示ししておりますが、これらの取組については前計画を踏襲し、計画の基本的な考えとして、初めに行政経営の仕組みとして、限られた経営資源を適正かつ効率的、効果的に配分し、生産性の高い施策を進める仕組みとして、行政評価によるPDCAサイクルを活用することとしております。

32ページをお開きください。

取組事項の２として、市の経営資源である人、モノ、おかね、情報の効率的、効果的な活用について、それぞれ取組事項を明記しております。

44ページをお開きください。

３、デジタル社会に向けたDXの推進として、昨今の人手不足、人材不足の状況を踏まえ、新たに項目を設け、取り組むべき内容の記載をしております。一部DX推進計画の内容と重複する部分がございます。

続きまして、47ページをお開きください。

４、市民、事業者等との連携・協働として、これまでと同様に、自治会をはじめとする地域、民間等との多様な主体との連携・協働について明記をしております。

これらの取組事項のうち、経営資源、人の成果指標につきましては、計画素案の段階では人材育成推進計画の成果指標とリンクする形で示しておりましたが、委員の皆様から様々なご意見、ご指摘を頂戴いたしましたので、行政経営計画の指標としてはなじまないと判断いたしまして削除をいたしました。

続きまして、経営資源のモノについてでございます。モノの成果指標につきましては、昨今の建設資材の高騰、人材の不足というところから先行きが不透明で、将来予測が困難な状況が今後も継続していく見込みの中、見通しがなかなか立てづらいというところでは成果指標を明記してございません。

いずれにいたしましても、人材不足の状況が改善される見込みは立っておりませんので、いざ施設の新築、改修するとなりましても事業者がいらないという状況も想定されますので、私どもといたしましては非常に大きな課題と考えているところでございます。

報告説明は以上でございます。

○金井会長 ありがとうございます。

それでは、第３次行政経営計画について何かご質問やご意見があればお願いします。

藤原委員。

○藤原委員 藤原でございます。

この31ページのCheck、Action、Plan、Doという、そういうサイクル非常に重視されてやっておられるということなのですが、このCheckのところですね。Checkのところというのは、行政内部で例えばどんな部門がチェックされているのでしょうか。独立した、例えば監査委員というのはもちろんいらっしゃるんですよね。そういうのとの関係とかはどうなっているのでしょうか。

○五箇野企画政策課長 企画政策課長です。

基本的には、まず各部門、事業を執り行っている課で評価をしております。そこで各課の中で振り返りを行いまして、その後、現在の流れの中では、施策の単位、もうちょっと大きな単位で、我々企画政策課や改革推進課が各課とやり取りしていて、事業の内容についてどういう進捗状況か、どういう評価をしているのかというところの議論をしております。そういった形のチェック、さらにはそこを経た上で、今度は部長クラスを対象にした議論を行うというような形で行政評価については進めております。

○藤原委員 そうすると、特に監査委員が行政評価を今のところやっていないということになるんですかね。

○五箇野企画政策課長 監査委員は決算審査という形で、また行政評価とは別のチェックをしているというふうに考えております。

○藤原委員 ぜひその内部評価というか、内部的なチェック機関としてのものがせっかくあるので、行政評価というか決算にかかわらず、そういうところもちょっと広げてみていただいたら、第三者的な立場の意見も一応出てきてますます有効になるのではないかという気もしないでもありませんので、一般的には行政評価ってなかなかやっていないと聞いていますけれども、中には県庁なんかだと結構やったりしますので、そこら辺は今後検討していただければということで、2点ですけども、すみません。

以上です。すみません。ありがとうございます。

○金井会長 ありがとうございます。非常に重要なご指摘だと思いますので、またご検討いただければと思います。

ほかにはございませんでしょうか。

では、佐藤副会長。

○佐藤副会長 今回ご説明いただいたとおり、先行不透明ということで、かなり柔軟な対応をするというのは非常によいが、51ページに記載いただいているとおりでと思いますので、そこは計画をしたからといって縛られずに、ちょっと柔軟な対応という余地は残しておいたほうがいいかなとは思いますが、ただ所感です。

もう一つ、43ページのオープンデータなんですけれども、いろんな自治体が今オープンデータという形でデータを公開するのはいいんですけれども、多分ユーザー目線というのが大事で、意外とやってみたら使い勝手が悪い、これあるあるネタですけども。なので、ちょっとユーザーの方々の声を反映させるということとか、あと、立川市についていろんな情報を公開いただくのはいいんですが、やっぱり関心はほかの自治体と比べてどうかと。例えば、立川市でビジネスをやるという人とか、立川市に転居しようかなと考えている人たちって、ほかの自治体に比べてどうなんだということについてやっぱり関心があると思います。もちろん、だから立川市が全部集める必要はないんですけれども、ほかの自治体との比較ができるような環境はつくっておいたほうがいいかなと思います。ちょっとここは、今内閣府なんかのデータダッシュボードみたいなのを今作って公開していますけれども、あれもかなりいろんな人から意見聞きながら作っていったという経緯がある、あれデジタル庁が実は所管してやっていますけれども。なので、ぜひその辺はユーザー目線を忘れないでいただければと思います。

○金井会長 はい、企画政策課長。

○五箇野企画政策課長 オープンデータにつきましては、そうですね。かなり始まった当初はPDFでも何でもいからデータを出すというような段階から、今は機械判読可能な形式で出すのがオープンデータですよというような時代というか流れが変わってきているのかなというところは我々も理解しております、機械判読できるような形で出すように心がけてはいるところです。

また、他団体の比較という面では、東京都の全自治体が載せるカタログサイトみたいなものがありますので、そちらのほうに我々もデータを上げて他団体との比較ができるような形にはしているところです。我々のところは、基本それほどホームページでは他団体のものは載せてはいないんですが、そちらのほうを見ていただければ、立川市のみならず、基本的にデータを出している自治体の情報は見られるようになっていくというふうを考えております。

以上です。

○金井会長 ありがとうございます。これも非常に大事なことなんですけれどもね。

ほかにはありますでしょうか。

黄委員。

○黄委員 黄と申します。よろしく申し上げます。

すみません。たまたま実はオープンデータを見ていたんですけれども、定期的に例えばアップしましたこのオープンデータなんですけれども、例えば半年、あるいは1年間でアップしたものを見直すとか、あるいはもうこのデータ古いので最新のデータをアップしたりとか、そういうような何かそういうメンテナンスというようなことはやっていますか。

○五箇野企画政策課長 基本的に年に1回は今載せている情報を更新するという作業は行っております。

○黄委員 もちろん全部見ていないんですけれども、令和4年度とか何か古いものがあるなというところが若干印象があったんですけれども。

○五箇野企画政策課長 ちょっと更新のタイミングが遅いというご指摘はそのとおりの部分があると思うんですが、基本的に年に1回の更新をおこなっております。

○黄委員 分かりました。ありがとうございます。

○金井会長 ということで、ちょっと見直しも必要ということです。

ほかにはいかがでしょうか。よろしいですか。

では、議題の2つ目のほうに移りたいと思います。DX推進計画ですね。

○野口改革推進課長 それでは、議事(2)立川市DX推進計画実施計画でございます。

立川市DX推進計画につきましては実施方針と実施計画で構成しておりますが、アクションプランとなります実施計画についてご報告いたします。

それでは、8ページをお開きください。

こちらは重点施策として、行政サービスのDX、行政内部のDX、地域社会のDXを3つの柱として明記し、それぞれの柱に対し合計で9つの取組を示してございます。委員の皆様からは、喫緊の課題にウエートを置いてもいいのではないか、優先順位を考えて行う必要があるのではないか、全体の業務量において、どこの部分がデジタル化の対応が進んでいて、どこができていないのか、どこの部分においてデジタル化が可能なのか、具体的なイメージで考えたほうがよいなどのご意見、ご指摘をいただきましたので、特に重要と考える取組を9つに限定して明記したところでございます。

議事(2)立川市DX推進計画についての説明は以上となります。

○金井会長 ありがとうございます。

それでは、ご意見やご質問あればお願いします。

では、黄委員。

○黄委員 黄と申しますが、8ページのところで、すみません。質問ではないんですけども、例えばA I活用した個別の最適な学習の実施についてなんですけれども、具体的に何か今活用されていますか。

○安藤デジタル改革推進係長 デジタル改革推進係長です。こちらのほうは、ここでA Iの機能が入ったデジタルドリルを令和8年度から導入しようと思っていて、こちらのほうの活用を予定しています。

○黄委員 具体的に何かこう文書化したりとか、要は職員の負担は減らすというような目的でというようなふうに考えていらっしゃるのでしょうか。

○野口改革推進課長 今現在、具体的にモデルケースとして、障害福祉課でA Iの導入について今試行しているところです。そこにA Iを学習させてどういったことに効率的につながるかどうかという話をしているところでございますが…。

○安藤デジタル改革推進係長 A I活用した個別の最適な学習の実施ですが、例えば、子供たちの個に応じて算数が少し苦手な子には簡単な問題とか、あとは圧倒的に学習ができる子は難しい問題といったようなA Iの機能が入ったドリルを活用しているといったところです。

○黄委員 ありがとうございます。

○野口改革推進課長 今、先走ってすみません。それとは別に、今例えば相談とか事案について、市民の方から問合せ等について、A Iを活用してどのように効率的に要するに答えが出てくるとかというようなことを別のセクションでも試しているところですので、ただ、実際にはまだ具体的に成果が出ているところまでは安定していない状況ですので、またこれはおいおいテスト、モデルケースの導入の結果を踏まえて、実際に入れるのかどうかは判断していきたいと考えております。

以上です。

○金井会長 よろしいですか。

じゃ、ほかには。ほかの方がいかがでしょうか。

西手委員。

○西手委員 今の8ページのところの1の行政サービスのDXの中にはA Iを活用したというね、そういうのは特にないんですか、こちらのほうは。行政サービスのDXについて、A Iを活用したシステムとか、そういうのはどうなんですか、A Iは。

○野口改革推進課長 実際に導入した事例ということでしょうか。

○西手委員 今後の実施ですね。方向性。

○小宮山市長公室長 この内部のDXにはA I入っている。地域社会DXにもA I入っているけれども、行政サービスのDXにはA Iは活用しない。

○野口改革推進課長 ありがとうございます。一応、基本的にこちらのA Iの活用については、行政内部についての今具体的な取組というのは想定していないという状況がございますので、こちらには明記をしていないということです。ですので、なかなかその行政サービスを提供するところでは、なかなか具体的にどういったところにA Iを導入するかということが…。

○安藤デジタル改革推進係長 恐らく行政サービスという形になると、ホームページとかでチャットボットとか、そういったところのA Iサービスというのがある。行政内部のまずA Iというのは、いろいろ個人情報が入っちゃったりとか、いろいろそういう事例もございますが、まず行政の内部から開始したいといったところがありますので、行政内部のA Iの活用を進め

て、おいおい行政サービスのほうも進めていく形になるということでございます。

○小宮山市長公室長 チャットボットも考えたり調べたりしたんですけども、意外とAIで何人かの質問にAIが答えるという、市民からの質問にAIが答えるというようなものを導入している自治体もあるんですけども、なかなか学習機能をかなり、学習を蓄積していかないといい答えが返ってこなくて、逆に市民がいらいらしてしまったり、期待した答えが返ってこなくて苦情に発展したりというような事例がまだあって、そのあたりではなかなかAIを活用したレスポンスというのがまだちょっと研究途上というか、実用化にはちょっと早いのかなというような、市内での話合いの中ではそのようなかたちになったところです。ただ、東京都のほうではたしか小池百合子さんのAIがいろいろと答えてくれたりするよなたしかサービスもあったよね、そんなのね。

○西手委員 そういう百合子さんに代わるような。

○小宮山市長公室長 AI大史君というのも考えて、市長にもちょっと話はしてみたんですけども、苦笑いはしてありますけれども。またでも、何かそんなような市民が楽しみながら行政に対して問合せだとか相談ができるような、そんな仕組みというのは引き続き…。

○西手委員 要するに、かなり複雑化とか、いろんな窓口がありますでしょう。それを例えば受付のところでAIが案内するとかというような、そういうロボットみたいなものの活用があるのかなという、そういう意味での行政サービスのDXというのは考えているのかどうかという。それは検討中でしょうか。

○小宮山市長公室長 そうですね。ただ、2番目にあるスマート窓口の推進ということで、書かない窓口ですとか、あるいはもう究極、市役所まで来なくても済むような窓口ですとか、そういうことを目指しておりますので。

○金井会長 これは東京都の事業ではないそうです。単なる作ったというだけで、東京都の公式の見解ではない。やっぱりそこら辺は心配なんでしょうね。AIが勝手なことを言って言質を取られたりするのはどうも嫌みたいで。

○小宮山市長公室長 でも、やっぱり窓口に来たときによりスムーズに、何ですかね、市民の方を案内できたり、市民の手間をかけさせないような窓口業務という観点のところでAIを活用するというのも、この項目の2番のあたりの中で少し考えていければなというふうに。

○西手委員 だから、今、案内をね、職員じゃないけれども、会社に委託していますよね、受付の案内ね。ああいう案内というのはどこの市役所もやってはいるんですけども、非常に懇切丁寧に案内してくれるなという。あの辺なんかも、人件費の削減みたいなものを考えればそういうのがあってもいいのかなという感じはしますけれどもね。

○金井会長 はい。

○佐藤副会長 今のAIの話で有名なのは保育園のマッチングとか、マッチング得意なので、あの分野はAIアルゴリズムの。活用としてはそのあたりから始めるのが普通かなというのと、学習機能がなかなか進まないのは、多分自治体単独でやろうとすると無理で、情報って多くないといけないので、複数の自治体で連携して学習をしていくというのはやっておいたほうが。よくいろんなAIの民間企業なんかでアップデートするときも、やっぱりいろんな情報を幅広く取ってアップデートしていくので、立川市の中だけで何とかしようとする、それはかなり厳しい。事例も少ないとすれば厳しいかなと思うので、また他自治体と歩調を合わせていくということもやっぱりあってしかるべきかなという気がしたというのと。

ただその一方で、今AIといいながらAGIとかいろんな汎用性AIですけども、出てきているので、この進歩たるやすごい。我々も多分フォローできていないぐらいなので、恐らくそこはどう使うかという以前に、どういう今技術があるかということはやっぱりフォローして

おいたほうが、一生懸命作って作りましたと言うけれども、もう時代遅れですなんていうのはあるあるネタだと思うので、そこはちゃんとアンテナを張っておいたほうがいいかなという気がしましたというのと。

12ページで素朴な質問なんです。スマート窓口を今後推進するときに、そこにある窓口はどうなるんですかねということ、自治体ってどこもそうなんですけれども、やっぱり窓口に人が来ることを前提にロビーを広く取って、皆さんカウンターがあって職員さんが働くという仕組みにしているじゃない。あれは人が来ることを前提にしていますよね。とすれば、今後例えばそういう施設のあり方、ある意味もったいないスペースになるわけじゃない。人が来なければ、あれはただの空きスペースでしかないので、そのあたりについては今後どういう利活用があり得るのかということ、その辺何か考えあれば教えていただければと思います。

○野口改革推進課長 現状の考え方としては、急激に来庁者数が減少するということはまだまだ先の話だろうというところで我々は考えているところです。ですので、一旦デジタルで来なくても済む、家でご自宅で手続きができる方もいらっしゃるれば、当然市役所へ来る市民の方、要するに結局は窓口に来られる方も一定程度いるというところでは、副会長おっしゃいますように、もう劇的にその来庁者数が減るというところの考えは現時点では持っておりません。先の将来を見ますと、恐らく来なくても済むような状況になるとは思っておりますが、現時点ではそこまでの考えまでは至っていないというところでございます。

○金井会長 はい。

○市川行革推進係長 行革推進係長です。

保育のA I活用につきましては、令和2年度から保育の入園判定にA Iを活用したマッチングというのを行っております。実際にその年度から単年度で大体800時間ぐらいの事務削減効果と、結果的に入園の決定時期が早まって、市民の皆様にご案内する時期が少し早められたというふうな効果が出ている次第でございます。

以上でございます。

○小宮山市長公室長 すみませんでした。保育園やっておりました。

あと、今ございました1階ロビーの広い部分というところで、立川市の市役所のしつらえのところで1つ利点としましては、いわゆる本庁舎市役所という機能と、あと市民協働スペースという機能がちょっと一体化しているといえますか、ちょうどここが市民協働スペースでありまして、1階部分もちょっと多目的スペースですとか、そこは市民協働スペースというような形で取っておりますので、もし可能であれば今のロビーの部分を縮小しつつ、そういう多目的スペース的なものを逆に拡大していくような形でうまく調整できればというふうに将来的には考えております。

○金井会長 では朝日委員。

○朝日委員 ありがとうございます。

全体は柱の1と2の話がDX多かったと思うので、行政内部のDXの話が多かったので、柱の3が2つですけれども、立ってよかったなと思えました。感想です。

それで、お聞きしたかったのが、18ページの取組7なんですけれども、これはやっぱり今までの話でも効果検証をしないとなかなか取り入れるのが難しいという話があったんですけれども、この試行運用による効果検証というのはどういった形で進めていくのか。例えば、担当部署が改革推進課と情報システム課となっているんですけれども、その中でできることでやるのか、各別の部署で取り入れていったことを効果検証していくようなやり方なのかということをお聞きしたいのが1つと。

あとは、これはお膝元かと思うんですけれども、行政評価の評価疲れというか、何か負担が

すごく大きいという話が、何でしたっけ、デジタル庁の何かでありましたよね。行政評価ハッカソンみたいな、デジタル技術を使って行政評価をすごく効率的にやるというような民間の連携だと思うんですけども、何かそういったものを取り入れていくのは行政評価の分野でもできるんじゃないかなというふうに思いましたが、一方、ここでその利用拡大を2年間かけてやるって書いてあるんですけども、何かそれも確かにちょっとどんだんいろんな技術が出てくると、ここで1年間かけて検証して、2年間新しいのを入れてってやっていくとちょっと何ていうか遅れちゃうような気もするなというのはちょっと感想として持ちました。

以上です。

○金井会長 いかがでしょうか。

○小宮山市長公室長 一応、担当部署は改革推進課と情報システム課となっていますが、何か試行実施するのを全部改革推進課と情報システム課でやるのではなく、全庁的にいろいろと取り入れていったAIの活用というものについて、改革推進課と情報システム課で連携しながら試行の検証をしていくということですので、実施から検証まで全部その2課でしかやらないということではなく、全庁的にできる部署から今どんどんと取り入れておまして、その検証を所管課と改革推進課と情報システム課が一緒になって実施していくというような進め方を今考えております。

○朝日委員 横断的な仕組みになっているということ。分かりました。ありがとうございます。

○小宮山市長公室長 ただ、スピード感は確かに、1年検証して、その後の2年でとなると、民間とかから見るとちょっと遅いのではないかというのはご指摘のとおりだと思っております。

○金井会長 どうぞ。

○五箇野企画政策課長 企画政策課長です。

行政評価へのAIの活用、ハッカソンのようなことも行われているというのは大変私不勉強で申し訳ないですが、初めて聞いたところです。そういったことがあるのであれば、確かに職員の負担軽減というところにもつながると思うので、これから少し研究をしていきたいというふうに思っております。

○金井会長 ありがとうございます。

生成AIの試行運用が具体的にどういうことをされているのかというのは、何か全体像はあるんですか。

○安藤デジタル改革推進係長 今福祉部門のところで、庁内の内部ナレッジについて、新人さんがベテランさんに聞いて業務を進めるといったところ、両方とも時間をかけてしまうところがあるので、そういったところはAIで解決できないかということ、そうしたところの実施を進めているところです。AIというのはやっぱり間違えてしまうところがあるので、こういう内部ナレッジみたいなところから始めて全庁的に展開をできればなというふうに考えているところです。

以上です。

○金井会長 ありがとうございます。

ほかにはいかがですかね。よろしいですか。

では、議事2はこの程度にして、議事3にいきたいと思います。決算ですね。決算の話にいきたいと思います。

はい。

○徳丸財政課長 財政課長、徳丸でございます。

それでは、資料4に基づきまして、令和6年度決算の概要がまとまりましたので、ご報告をさせていただきます。

こちら、総務省のほうで地方財政状況調査、一般的に決算統計と言われるんですけども、それに基づく集計で、今後まだ国や都の指摘によって数値が変わる可能性はございますので、その点だけご了承いただければと思います。

まず、1ページ目に全体の概況をまとめておりますけれども、まず歳入につきましては、市税や繰入金などの増によりまして14億8,000万円増の966億2,000万円となっております。市税につきましては昨年度定額減税がございましたので、個人市民税が減となっておりますけれども、法人市民税ですとか固定資産税などの増がございましたので、全体としては増というふうになっている状況でございます。

続いて、歳出につきましては、人件費、扶助費、公債費といった義務的経費などが増となっております。24億1,000万円増の919億3,000万円となっております。このうちの人件費なんですけれども、退職手当が増となっておりますけれども、こちら退職手当は今年引上げを段階的に進めている関係で、令和5年度には定年退職者はおりませんでした。令和6年度は退職者がおりましたので、その分、退職手当は増えるというところでございます。

勤勉手当の増につきましては、東京都の人勧の引上げ等によりまして職員全体の勤勉手当が上がっている部分と、あとは会計年度任用職員の勤勉手当の支給が昨年度から始まりましたので、その分が大きく増というふうになっているというのがございます。

続いて、財政指標でございます。

この中の決算剰余金に当たります実質収支につきましては34億1,000万円の黒字で、実質収支比率は1.9ポイント減の7.4%となっております。実質収支比率は、一般的には3%から5%ぐらいが適正と言われておりまして、多摩地区では大体6から7%ぐらいが平均というふうになっておりますので、おおむね妥当なところかなと思います。

経常収支比率につきましては、3.1ポイント増の88.2%となっております。こちらは、経常的な収入、また経常的な支出両方共に増となっているんですけども、やはり経常的な収入を経常的な支出の増が上回ったということで、前年度に比べて3.1ポイント増となっております。

また、一般財源に占めます公債費の割合を示した公債費負担比率につきましては4.9%ですので、前年度と増減なしとなっております。

基金につきましては、公共施設整備基金と清掃工場建設等基金のほうに計画的に積み増すことができしております。

財政調整基金につきましては、現在目標の額を達成しておりますので特段積み増しはしておりませんで、この200万円増というのは金利分のみというふうになってございます。

市債残高につきましては、4.5億円減の278億5,000万円となっております。

以上が概要ですけれども、2ページと3ページのほうにはそれぞれ歳入と歳出の一覧ということで載せさせていただいております。

4ページ目なんですけれども、4ページ目だけはちょっと決算書と一致したものになっておりまして、1ページから3ページ目のところは総務省が言う決算統計と普通会計というベースで定められたものなんですけれども、4ページにつきましては一般会計、特別会計、下水道事業会計という決算書に示された決算書の概要というところで示させていただいております。それぞれ一覧と下段のところにそれぞれの増減の状況を記載させていただいておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

説明は以上でございます。

○金井会長 ありがとうございます。

この点についていかがでしょうか。

どうぞ。

○佐藤副会長 2ページと3ページ、素朴な質問からなんですけれども、歳入のところで大きく増えたほうですね。繰入金が増えています。もともと収入多いのに、ここで繰入金が増えているって何か理由はあったのかなということと、繰越金も前年ほどじゃないけれども、56億って多いんですけれども、これ多分補正予算か何か使い切れないで回っていたものなのかどうかということの確認です。

あと、ちょっと素朴なもう一つ質問は、教育費が結構下がっているんです。その割には給食の無償化をやったり、見守りか何か、GPS端末を購入したりってやっている割には教育費が2割減ということになっています。これって少子化の影響という理解で大丈夫、あるいはそうではない何か別の要因があったのかということについて、これどうなんですか。

○徳丸財政課長 まず1点目、繰入金につきましては、今回清掃工場建設等基金からの繰入れを行いました。これは何に充てるかといいますと、今、旧清掃工場の解体工事をやっておりまして、その解体工事に市債を充てようかなと思っていましたけれども、割と基金が順調に積めていって市債を借りずともできるということで、この建設等基金を補正で積んだというものでございます。

繰越金につきましては、やはり補正財源としてはほぼほぼ使っているんですけれども、そうですね。繰越金につきましては、やはり市税収入の大きな伸びなどがあって、そこでこれだけのものを確保できたのかなというふうに考えています。

○佐藤副会長 じゃ、前年伸びたやつを使い切れずに前に持ってきたと、そういうこと。

○徳丸財政課長 はい。ただ、これ前年度よりも小さくて、単年度の収支としてはマイナスになっておりますので、そういった意味では使い切っているのかなというふうに思っています。

教育費につきましては、ここハードの部分がありまして、教育費の減があったのが、学校給食の共同調理場を令和5年度に造ってございまして、それが令和5年に竣工したので、その建設費が……

○佐藤副会長 なくなっちゃった。

○徳丸財政課長 ということ、投資的経費が……

○佐藤副会長 投資的経費が減ったと思えばいいんですか。

○徳丸財政課長 はい。

○佐藤副会長 分かりました。

あと、もう一度だけ、1点基金のことで、基金のことなんですけれども、公共施設整備基金がもう238億とかなり金額としては多いと思うんですけれども、これってもう、前も伺ったかもしれませんが、用途は大体決まっているという理解で大丈夫。

○徳丸財政課長 今後公共施設の再編が続きますので、もうそこは完全そこに、どこの施設というわけではないんですけれども、今後再編が続いていくことを考えると当然それぐらい必要かなと思ってございまして、今目標額としては、累計にはなりますけれども、350億円積んでいきたいというふうに考えているところでございます。

○佐藤副会長 分かりました。ありがとうございます。

○金井会長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

笹浪委員。

○笹浪委員 2ページ目見ていると、宿泊税というのが見当たらないような気がするんですけれども、多分まだ課していないのか。課していなかったら、これから何ていうんですかね、市独自で課せるものなのか、それとも東京都で決めて課すものなのか教えてください。

○徳丸財政課長 財政課長です。

宿泊税は、立川市ではご認識のとおり課しておりません。目的税につきましては、今、立川市のほうで具体的に検討しているというところはない状況になっています。

○笹浪委員 でも、地方の温泉地では考えていますよね、例えば箱根みたいなどころとか。

○徳丸財政課長 例えば、今立川市で入湯税を入れたんですけれども、今2万2,000円の歳入というところで、今後宿泊税を入れたことによってどれだけの収入が見込めていけて、あるいはそれで観光客がどうなるのかといったところも含めて、全体のバランスの中で見ていくのかなとは思いますが。

○下河辺政策財務部長 政策財務部長です。

宿泊税については、東京においては東京都が賦課しているような形になっておりますので、恐らくはそこに立川市として上乗せで徴収をするのかどうかというところは、かなり住民、または利用者の——住民というよりは利用者ですね——同意は得られにくいのかなというところはあるかと思えます。もし市のほうで何か観光目的での税収目的的なものを考えるということであれば、別の何かを考えていくという策がよろしいのかなというふうに思います。ただ、観光地というところではありませんので、なかなかそういったところの検討というのが進んでいないというのが現状だと思います。

以上です。

○金井会長 ほかにはいかがですか。

はい。

○曾我委員 国民健康保険の関係なんですけれども、繰入金が1億6,000万減ということなんですけれども、これは赤字分が減になったというふうな、あるいは法定も含めて減になったのかどうか、その辺のところをちょっと教えてください。

○徳丸財政課長 財政課長です。

国民健康保険は、ちょっと4ページのところの下の文章の3つ目をご覧いただきたいんですけれども、実は国保会計自体が減っています、予算規模として。それはなぜかといいますと、ちょっとまだ分析は詳細できていないんですけれども、やはり国保加入者が減っていたりというところがあるので、今社会保険の適用拡大が進んでいる関係で被保険者自体が減っているんで、国保会計自体が減っているんですね。そうすると、当然一般会計から繰り入れた赤字分も減ってくるというところで、会計自体の規模の縮小に応じた繰出金の減というふうにご理解いただければ。

○曾我委員 社会保険に入る方と、あと後期高齢に移管する方も……。

○下河辺政策財務部長 後期高齢のほうに移行しているというところが大きいような。

○曾我委員 大きいですか。分かりました。ありがとうございます。

○金井会長 ほかはいかがですか。

じゃ、藤原委員。

○藤原委員 藤原でございます。

先ほど公共施設整備基金というのが238億円ということで現在あるということですが、目標が350億円ということで、それだけ今後、公共施設の再編に伴う何というんでしょう、インフラの整備というんですか、そういうのが出てくると考えていいわけですね。ちょっとこれだけ、主には工事費が結構占めると思うんですが、これだけの工事費を使う中で、私実はちょっと市の監査報告を見たところ、全く今まで工事の監査というのがないんですね。これだけ工事使っていて、今後使う予定で、そういうチェックも本当はしたほうがいいのかなというようなちょっと印象でございます。今後はそういう予定は特にないんでしょうか。

○小宮山市長公室長 市長公室長です。

監査のところでちょっとお伺いいたしますと、どうしても現在立川市で行っている監査自体が会計監査のほうに偏っているって言ったらかおかしいんですけども、行政監査のほうは若干手薄になっているかな。先ほども申しました定期監査ですとか、それから決算監査といった会計部門の監査を中心に行ってきたんですけども、市長もはじめとしまして、やはりこれからは監査機能というのをも評価をしていく必要があるだろう。ついては、住民の今の監査委員自体が非常任といいますか、今3名勤めているんですけども、やっぱり常勤の監査というのがこれからは必要になってくるんじゃないか。非常勤の監査委員ばかりですので、やっぱり常勤の監査委員が必要で、なおかつやはり行政内部の事務手続だとか、そういったものにも長けた常勤の監査委員というのが必要じゃないかというようなことで、そういったものを導入をしながら、これから恐らく、今ご指摘の工事ですとか、あるいはほかの部門も含めて、様々行政監査的な部分にも力を入れていく必要があると思っておりますので、いつの時点でどのタイミングでというのはまだちょっと私も聞いておりませんが、そのような考えを理事者のほうも持っていて、ご指摘のとおり、そのあたりが現在は手薄であるというふうには認識しております。

○藤原委員 ありがとうございます。

○金井会長 ほかにいかがですか。

どうぞ。

○佐藤副会長 今の基金の話なんですけれども、せっかくためた基金でもインフレになると実質額は下がっていくことになるので、運用が大事。うちの大学もそうなんだけれども。運用が大事で、国債で回していてもちょっと金利がおぼつかない。過去の発行される国債ですと金利もおぼつかないので、資金運用、地方債の金利も上がっていくので、逆にいかないと積立金のほうの金利収入を上げないとバランスが取れなくなってくるということもあるので、この基金の運用とかって何か考えているの。多分、確かにかなり縛りがあるのは知っているんですけども。

○徳丸財政課長 財政課長です。

おっしゃるとおり、やはり金利の上昇というのが公債費上昇というところでかなり厳しいかなというところで、今、会計管理者のほうでこの基金の運用をかなりやっております、例えば多いのはやはり都道府県が発行しているグリーンボンドだとか、そういったところを購入して安全性の高いほうで運用しているというふうなところでございます。以上です。

○佐藤副会長 グリーンボンドだと、多分ちょっとおぼつかないですよ、収入。

○下河辺政策財務部長 確かに、ちょっと補足させていただきますと、リスクの高い運用というところはなかなかやはり我々としても手が出しづらいというところはあるんですけども、幸い副会長おっしゃっていただいたとおり、基金が各基金積み上がっている状態に今ありますので、割とその額を合わせつつ、今までは割と低金利の時代は運用してもしょうがないというところでノウハウがかなり失われてしまっているところがあったんですが、ここで金利上がる前からですけども、運用再開をしようということで、かなりその辺を学習を進めまして、今はかなり他の自治体で成功している事例なんかを聞きつつ、会計管理者のほうで運用を進めているという状況で、基金の額を合わせて運用していますので、利子が大変多くついているということで、令和6年度2回補正をしまして積み増しをしているという状況までできています。ですので、まだ学習途中ではありますが、なるべくリスクのないような形で運用は続けていきたいなというふうに考えております。

以上です。

○金井会長 ありがとうございます。

ほかにはいかがですか。よろしいですか。

もしなければ、最後といいますか、議事（４）ですね。令和８年度の行財政運営の方向性の取組事項についての案ということでお願いしたいと思います。

○五箇野企画政策課長 それでは、企画政策課長です。

資料１をご覧いただければと思います。

それでは、議題（４）の行財政運営の方向性と取組事項（案）についてご説明させていただきます。

全体資料の２ページをご覧ください。

事務局がお話しする前に、まず現況について触れていきます。

令和７年度は、第５次長期総合計画の初年度であり、計画への取組をスタートさせたところでございますが、本市を取り巻く状況としましては、昨年の能登半島地震やこれまで経験したことのないような暴風雨発生など、頻発する自然災害や依然として続く物価高騰、物価高騰についてはもはや物価は上がるものと認識を改めなければならない状況にあるというふうにご案内しております。

また、令和６年の出生数が70万人を下回るなど少子化が加速している一方、今年は団塊の世代が75歳以上となる2025年問題と呼ばれる年であるとともに、団塊ジュニアと言われる世代が65歳以上となる2040年も着実に近づいてきているような状況です。こうした中で、人口減少について真正面から受け止めなければならない時期に来ており、それに併せDXや都市基盤の老朽化などへの対応が求められている状況にあります。

続いて、本市の取組状況につきましては、国や都と連携した物価高騰への対応や、本年５月には子ども未来センターに隣接した場所に市民の健康と子育ての安心を支える拠点である立川市子育て支援・保健センターを開設いたしました。また、保育園の給食の無償化や住民情報システムのガバメントクラウドを活用した標準準拠システムへの移行といったような取組も行っているところです。

これまでの状況を踏まえて、令和８年度の展望でございます。

３ページをご覧ください。

計画期間の２年目となる第５次総合計画の推進は言わずもがなでございますが、安全・安心な市民生活の対応、これにつきましては、先ほどの災害への備えや物価高騰への対応、都市基盤の老朽化対策などを含めて考えております。また、先ほどお話しした2025年問題、2040年問題をはじめとした高齢社会に向けた取組や、少子化に対応するための子供・若者政策への取組も重要になってくると考えています。

少子化の影響としましては、働き手の減少という状況がますます厳しくなっており、一部では人材の奪い合いといったような状況も起こっております。こうした状況を踏まえると、今後事業を進めるに当たっては、自治体単独で対応するだけでなく、官民連携や自治体連携の視点を持つ必要があり、またDX、GXの取組も重要になってくるというふうにご案内しております。

こうした展望の下、令和８年度の政策を展開する上で重視する視点といたしまして、４ページに記載の４項目を設定いたしました。１つ目が「くらしに安全とやすらぎを」、２つ目が「人もまちも挑戦し続ける」、３つ目が「連携と改革により時代を切り拓く」、４つ目が「市役所業務改革の推進・加速」としてございます。令和８年度は、これらの視点をベースにした取組を進めてまいりたいと考えております。

私からの説明は以上で、続いては野口課長、お願いいたします。

○野口改革推進課長 それでは、改革推進課長でございます。

資料５ページからのご説明をさせていただきます。

4につきましては行政行財政改革の取組でございます。こちらは、経営戦略の中で重点改革事項という形で示してございまして、事業の見直しなど、いわゆる行財政改革につながる取組について記載をしております。内容といたしましては、経費の節減や、あるいは新たな歳入の確保といった視点での取組というのが主なものでございます。令和8年度に向けて、大きく4点挙げさせていただいております。1つ目は、公有財産の有効活用、2つ目が、最適なサービス提供手法の推進、3つ目が、DXの推進と業務の効率化等、4つ目が、受益者負担の適正化でございます。

重点改革事業につきましては、行政評価を活用し、課長級の会議の中で議論をいたしました具体的な事業となっておりますけれども、こちらもなかなか事業所管課から挙がってくるものはほとんどないという状況で、会議の中でもあまり活発なご意見というのは出ていない状況でございます。事業の見直しということにつきましては、やはり市民の皆様のご理解を得ることが非常に難しいという状況もございますので、なかなか見直しの事業ということとして挙げづらいという状況がございます。

これまでの審議会の議論の中で、やはり人手不足、人材不足というのは重要なキーワードであり、究極の解決策は仕事を減らすしかないというご意見も頂戴しておりますので、ぜひ本日はそのあたりにつきましても委員の皆様からご意見、ご助言を頂戴したいと考えているところでございます。

説明は以上でございます。

○金井会長 ありがとうございます。

それでは、この案についてご意見をいただければと思います。

どうぞ。

○佐藤副会長 今最後に出てきた人手不足というところなんですけれども、この最後にいただいた5ページの4の中の、これはどこに入るのか。2でいいんですかね。サービス提供体制の見直しなのか、あるいは3なのか、ちょっとそこは明記されたほうがいいのかなどというのと。

他方で、人手不足ではありますが、高齢者とか退職世帯は増えていくので、こういった方々が有為な人材になってきた。皆さん、我々もそうです。間もなくそうなるわけなので、寝かせておくにはもったいない人材だと思うんですね。だから、別に年金生活されていますので、お金的にはそこまで求めないはずなので、ボランティアでも、もちろん有償でも構わないんですけれども、高齢者の方々をどうやって巻き込んでその行政サービス、あるいはいわゆる若い人が企業行動をするときと違って言いますよね。そういったところに支援をいただけるかどうかというところ、そこは眠れる資源だと思うので、そこは考えたほうがいいのかというのと。

それから、1の公有財産の有効活用のところで、これ町田に聞いたらうまくいっていないと言われたんですが、民間提案とか、やっぱり外部から公有財産の利活用については提案を求めていくということは制度的には可能なはずなので、それをやってみて、あとはもし提案したら少しポイントをつけて入札上有利にしてあげるとか、ちょっとだけでも。何かそういった工夫をしてインセンティブつけるとか、少し外から知恵を入れるという仕組みは要るかなという気がしているというのと。

あと、もうちょっと公共施設の有効活用の点でいうと、学校施設も含めて複合化を今後どうやって進めていくかというところの、これあっちこっちで言っています、学校の複合化は特に難しいのを知っているんですけれども。やっぱり、ただやっぱり造ったはいいけれども、用途はいろいろとこれから変わってくると思うので、人口構成も変わりますので。なので、ちょっとその辺、複合施設化というのをこの公有財産有効活用の中に入ってくるかなという気がするのと。

あとすみません。最後にもう一つ、現状においても一つの大きな課題、この参議院選挙で大きな課題になったのが外国人問題で、これ放っておくと逆に、立川市もそれなりにいらっしやると思うんですよ。うちの大学もありますから、あの近所には。なので、もちろん払うものは払ってもらおうとして、税金だろうが保険料だろうが。他方で、やっぱり彼らを排除するような仕組みをつくるのはまずいので、どうやって外国人の方々を取り込んでいくかということ。もちろん、いろんな行政サービス、日本語ができない方々に対してどういうサービスを提供できる、多言語化をしていくということも含めて、あとももちろん学校の現場でも、恐らく外国人労働者の子弟が入ってくるということもあるので、もう既にいると思いますが。なので、このあたりをどうやって共生、いわゆる格好いい言い方をすると共生社会という言い方になりますけれども、どうやって外国人の方々を取り込んでいくかということ、これもちょっとここにきて大きな課題になっているのかなと思います。

以上です。

○金井会長 いかがですか。

○野口改革推進課長 私からは、一番初めのご質問でございます、人材不足のところはどこのエッセンスとして入っているのかということでお答えしたいと思います。

まず、直接的な表現というのはこちらの内容には盛り込んでおりませんが、今人手不足の対応といたしましては、各自治体ともに市役所全体の開庁時間というものを見直しを図っている状況がございます。こちら、デジタル化の進展によりまして、もう市役所に来庁する市民の方々が少なくなっていると。そういった状況を踏まえまして、開庁時間を若干短くするというようなことを取り組んでいる自治体もございますので、私どもといたしましては、まずはそういったところ、開庁時間、実際にこれが検討を入れてもできるのかといったところで、今人材がもうそもそも奪い合いというか、そういう状況が発生している中、ちょっと職員に考える、要するに新しい取組に対して検討できる時間を確保いたしまして、まずはそこからスタートしたいなということで、この3のDXの推進と業務の効率化等の中の最後のひし形のマークになりますが、開庁時間の見直しというところの文言を入れさせていただいたところがございます。私からは以上でございます。

○小宮山市長公室長 市長公室長です。

公有財産の有効活用のところで、直近というか、当面はこのタイトルにありますとおり、来年度、令和8年度の取組事項といたしましては、今度子育て支援・保健センターというのできまして、そこに複合化という形で健康会館ですとか、それからドリーム学園、そういった施設を複合化して、そうすると、今あったところの施設が空き施設というか、跡地になりますので、それを売却するのか、それともほかの用途で活用するのかといった利活用の検討をしているところ。それから、若葉町のほうにあります旧若葉小学校、こちらにつきましても有効活用をしていくということで、これは若葉町まちづくり方針というのを以前つくっておきまして、その中では地域の拠点でもありますので、現在まだ残っている旧若葉小学校の校舎を使える限りはうまく使うような形で民間活用していこうということを今検討している状況です。

複合化をどう進めていくかというような副会長のご指摘もございまして、今のところ学校というものを地域の拠点というふうに位置づけて、そこに親和性の高い児童館ですとか、学童保育所ですとか、そういったところを併せて複合化をしていくということを再編の計画の中で示してはいるところなんですけど、昨今の特にやっぱり人手不足が響いておりまして、入札かけても入札自体が成り立たなかったり、そういうような状況で、その複合化を進めようにも今進められないという非常に苦しい状況に陥っているところなんです。かといって、建物自体はどんどん老朽化が進んでおりますので、そのまま入札が成立するまでひたすら待ち続けるという

わけにはいきませんので、老朽化が今どのくらい進んでいるのかといった老朽化度合いの調査というのを併せて進めていこうといったところでございます。取りあえず、令和8年度取り組みもうとしているような内容はそんなところでございます。

五箇野企画政策課長 多文化のお話なんですけれども、5ページのところでちょっと触れなかったようなんですが、どちらかというと4ページの(1)の「くらしに安全とやすらぎを」というところに補完されてくるのかなというふうに考えています。また、当然、多文化共生の事業につきましては、第5次の計画の中でも政策としてきちっと立っている部分でありますので、当然進めていくべき内容であると思います。あと、来年度の取組事項として、ちょっとどの程度具体的に書くかというところについては今後検討させていただければというふうに思います。

以上です。

○金井会長 ほかにいかがですか。

○浅野委員 すみません。委員の浅野です。

先ほどちょっと室長さんからもお話あったこととちょっと重なるかもしれないですが、5ページの公有財産の有効活用のところで、統廃合よりももうちょっと1歩進んで、1歩踏み込んで、廃止とかも検討できないかなというように感じました。例えば、名指ししてあれですけれども、体育館2か所も要るのかですとか、あとは公民館の何か和室、お茶室とか、どのくらい利用率があるのかとか、あとはペDESTリアンデッキのエスカレーターですか、あんなにたくさん要るのかだとか、ルミネのエスカレーター使ってもらえばいいんじゃないのとか、健康な人は階段使ってくださいとか。ちょっとなかなかどこまで踏み込むのかというところもあると思うんですけれども、そういった施設の廃止ですかね、といったこともちょっと踏み込めないかなというのが、時期尚早という話があれば申し訳ありませんという話なんです。

○野口改革推進課長 改革推進課長です。

施設の廃止につきましては、市内に4か所ございます住民票の写し、証明書の交付と、あとは収納業務を主な業務としておりました連絡所を廃止とするというような方向性については今年の3月の議会でお示したところですので、こちらにつきましてはご存じかもしれませんが、例えばコンビニの証明書の交付手数料を10円にして、その効果によって窓口に来る利用者が減ったと。そういった状況を見まして、あと支払い関係については、例えばコンビニで支払えるクレジットの決済、代替機能が十分に整備されているというようなことで説明をいたしましてご理解をいただいたというところでございます。

今後につきましては、大きく状況が変わっているところがございますので、どういったところがそういった施設、やはり施設を維持管理していくというのは非常に大きな費用がかかるというところがございますので、そちらにつきましてはやはり他市の状況等も踏まえた上で、ご意見を踏まえまして検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

○小宮山市長公室長 追加で、正直やっぱり行政をスリム化といいますかね、効率的な行財政運営という上では、やっぱりスクラップ・アンド・ビルドというんですかね、新しいことがどんどん増えていく中で何かしらスクラップしていかなければというふうに思っている中で、正直、何かをやめる、あるいはどこかの施設を廃止するといったときには、廃止しないでというようなお声のほうがよく届きまして、不思議なことに。逆に委員のように廃止したらというような意見がなかなかありませんので、そういった意味では、多分そういう廃止したらですか、そういう声というのはあんまり表に出てこないといいますか、貴重な意見だというふうに思っておりますので、今回は本当に重ねて申し上げますが、貴重なご意見をいただいたというふうに思っております。ありがとうございます。

○金井会長 はい。

○曾我委員 使用料の見直しの件なんですけれども、今こういう物価高の中で使用料をまた上げるということは市民の方の負担も増えるだろうとは思いますが、やはり施設を維持していく上でどうしても必要ではないかな、運営経費や何かも上がっているという中で。その際に、その使用料の見直しの何というか、サイクルというか、そういったものは何か規定みたいなのは、例えば3年に1回だとか、5年に1回見直すだとか、そういった決まりがあるのかどうかということと、あとその使用料を見直す際のメンバーですね、市民の方を入れるとかそういうような、使用料審議会をやっている自治体もありますけれども、その辺のところはいかがなんでしょうか。

○野口改革推進課長 改革推進課長です。

まず、サイクルのところでございます。現時点ではなかなか明確にサイクルというものは決めておりませんで、例えば過去に消費税が上がったときとか、そういう機会を捉えてやるというところはあるんでしょうけれども、なかなか本市といたしましては、定期的にそこを見直していくというところは今後の課題というところで認識しているところで、なかなか現状としては定期的な見直しというのはできていないという状況です。

審議会につきましては、現在使用料等審議会という条例設置の会議体を持ってしまして、学識6名、市民委員が6名という形の構成でございます。ただし、こちらあまり開催されていないという状況がございまして、過去の対議会への説明では保育料、学童保育料と下水道使用料の関係で開催するというようなことの方角性は示しているところです。昨今の状況でいきますと、曾我委員おっしゃいましたように、恐らく物価高騰について、適正な受益者負担というところで考えると当然使用料も上げていく必要があるんじゃないかというところと、あとはやはり大きな話題となりました、例えば道路の陥没とか下水の老朽化とか、そういったところは状況に、現状を見ますとやはり適正なところでの検討は今後必要になってくるのかなと感じているところです。

以上です。

○曾我委員 使用料等審議会なんかやってもなかなか結論が出ないとか、そういったことはあると思うんですけれども、やはり使用料を見直していくという姿勢を示すことも必要ではないかなというふうに思うので、ぜひそのようなご検討を願いたいと。

○野口改革推進課長 そういったご意見をいただければと。ですけれども、なかなかやはり市民と直結することについては、なかなか我々のほうも合意形成も大変なところがございまして、貴重なご意見、重ねて……

○曾我委員 それは十分分かります。

○金井会長 ありがとうございます。

それでは、朝日委員。

○朝日委員 上の4ページの3番の官民連携のところに関連しての下の部分なんですけど、来年はちょっとないかもしれないんですけれども、公有財産の有効活用のところ官民連携、やっぱりPFIとかいろんなことを考えていく機会がもう当たり前になってきているかと思うんですけれども、何かその辺でちょっと思うことは、民間が入ったときに、民間が組成した地元の企業が、何ていうか、地元の企業も活用していい形になりますよというふうな立てつけなんですけれども、何となくこういう人不足ということもあってか、搾取じゃないんですけれども、結構その組成されたほうの小さい事業体というのが割と大変。大手の企業が受注した場合に、特に東京というか、立川なんかもそうだと思うんですけれども、割と大手の企業がヘッドを取ることが多くて、そういうときに結構その部分の分配がとても多くてというふうなところが結

構見受けられるような気がしています。なので、要は地元の企業をきちんと育てるといいますか、そういう観点があってもいいんじゃないかと。よくその地域のNPOなんか、特にサービスの運営なんかについては協力しますということを使うだけども、結構、よくゾウとアリという言い方をされるんですけども、そういう組成したところの上の大手企業にとっては、なかなかそもそもやってきたNPOとかの事業をなかなか生かせないというようなことも聞いたりするので、その辺のところは官民連携については気を使ったほうがいいんじゃないかなというふうに思っています。

それと同じようなことが、公共調達というか、先ほど工事がということもあったんですけども、こういうふうに人の取り合いとか業者の取り合いになってくると、国の公共調達も見てみると、割と今まで自治体レベルで入っていた企業を国レベルのところへ引き上げようとするような調達制度というのがあって、要は言葉はよくないですけども、ちょっと手を突っ込んでくるような、国のほうにも応札できますよというような形、ますます地域のほうは苦しくなるんじゃないかなというふうに思うところもとてもありますので、そういう意味でも地元の企業を育てるとか大事にするとか、そういうところを大事にしていってほしいんじゃないかな。競争というところはもちろんあるんですけども、そこを損なわないような。ちょっとびっくりしたのは、何か東京都も大学3年生からもう試験を受けられて、4年生に卒業を待って入都できるというようなシステムも入ったというふうに聞きますので、本当に公務員のところでも取り合いになっているなというふうに思いますので、そのあたりをちょっと思いました。

あと、受益者負担の適正化というところなんですけど、今のご意見のとおり、受益者きちんと負担してもらうところは負担してもらうところがあるかと思えます。その上で、お金の面、人材だけじゃなくてお金の面でも官民連携というところが、資金調達を民間からということも目指されているところかと思うんですけども、それも大事なと思っていて、その受益と負担がはっきりしているところはいいんですけども、もう一つ、もう少しはっきりしないような公益の部分だとか、あるいは格差の部分ですね。いろいろなこと、例えば教育なんかで公共施設でいろんなイベントをやって提供したとしても、有料だと参加しにくいとか、そういうところに関しては、今までだと行政が負担するというところだったかと思うんですけども、企業もそういったことでお金を出す、協賛することで、それがメリットになるような、ESGだったり、そういうところも企業規模によっては増えてきているかと思うので、そういうそのお金の面での官民連携というところも全部財政負担になるというふうな流れではなくて、民間と分担して何か事業ができるようなところというのをも考えていくといいんじゃないかなというふうに思いました。すみません。ちょっと抽象的で。

○下河辺政策財務部長 政策財務部長です。

地元企業の育成というところのお話なんですけれども、私どものほうでも公契約条例をここで導入するということになっておりまして、そこに併せてというか、それよりも先行して、これまで条件付きの一般競争入札というところで、市内企業も市外の企業ももう同列で入札を実施してきたというところだったんですけども、やはりここでいわゆる地元の企業さんの地元への貢献度合いというところですか、そういった優遇措置を入れた制度を開始しまして、やっとまだ1件なんですけれども、試行でやり始めたような状況がありますので、今後工事と委託について、そういった形で地元企業優遇の入札制度というところを増やしていきたいなというところではあります。

ただ、実際には非常にその項目が多岐にわたっておりますので、審査にもかなり一定の時間がかかるというところで、全件を行うというのはなかなか難しいんですけども、地元の企業

さんの規模で取りやすい案件というところについては、おおよそそういった形を入れていこうという方向性は持っています。

○金井会長 よろしいですか。では。

○笹浪委員 よろしいですか。すみません。4ページの(2)の出かけたくなるまちというところなんですけれども、私、実は立川は鉄道のまちだと思っています。多分この中にも鉄男君1人ぐらいいるんじゃないかなと思っていますけれども。それで、あんまりこれに力を入れていないんですけれども、私のお勧めのJRの場所が3つありますので、ちょっと聞いていただきたいなと思うんですけれども。

まず、今日も行ったんですけれども、北口の出張所ですね。あの角度で電車の車輪が見られるというところないですよ。たまらないです、あれ。昨日も行って、今日も行ったらブラインドが下りていたんです。昨日はちょっと曇っていたので大丈夫だったんですけれども、今日はキンキラキンだったので。かなり難しいとは思うんですけれども、例えば勤務時間が5時終わりですよ。何かいろいろ策を弄して、書類とか機器に触れないようにして、何ていうんですかね、ツアーやってみるというんですか。電車は12時過ぎまで走っていますよね。あの車輪たまらないですよ。

あと、それから、立川駅に西改札ってありますよね。あそこを出ますとフルーツパーラーありますね、果実園。そこを左に行きますと、中央線と青梅線が上から見れますよね。あその通路は意外といつもすいているんですけれども、あそこもたまらないところですよ。上からあずさとかかいじとかが見られるし、向こうに青梅の山見えますよね。絵としてはすごくいいと思うんです。

あと、3つ目ですけれども、これちょっと難しいかもしれないんですけれども、西立川駅ですね。あそこ多分半分ぐらい昭島市のものですかね。お勧めはホームの一番東中神寄りなんですけれども、それがどうしたって言われるとしようがないんですけれども、特別快速ありますよね。あれの上りと下りの先頭とお尻が見える時間があるんです。同時に同じ、何だろう、同じ位置で。あれを狙って結構鉄ちゃんがいらしていますね。それとか、あと昭島市になるんですけれども、昭和高校のあの近くですかね、ああいうのを元手は1円もかからないんですけれども、JRといろいろ折り合いをつけて何かやれたらいいなと思っています。

以上です。

○浅野委員 何かモノレールの車庫もあるんですよね、立川にね。何か立川市さんのお力で、何か市民限定の見学会とか。

○笹浪委員 ちなみに、私は乗り鉄です。

○五箇野企画政策課長 貴重なご意見というか、ありがとうございます。

私、ちょっと前までというか、ここに来る前に広報課にいたので、そういった立川の隠れた名所みたいなものっていろんな形で紹介できればなと当時思っていて、こういう一部の特に好きな人に響くようなこういう場所って多分物すごい価値があるなと思うんです。例えば、ちょっと広報課にも提案してみようと思うんですけれども、例えばこれを立川市のXに載せて、別に何気ない風景でXっていいと思っているんです。何か情報を伝えなきゃいけないというよりも、こういうところが立川にありますよというのを流していくということが多分立川市のシテプロモーションにもなりますし、まちの価値を上げる、先ほど言っていた出かけたくなるまちにつながるような取組になるのかなというところで、非常にありがたい今回のご指摘というか、ご示唆をいただいたと思っています。ここはそういった部門にも伝えて、立川の1つの資源として何か活用できないかということは、ここにいる以外にも共有しながらやっていけるようにしたいというふうに思います。

○金井会長 では、三浦委員。

○三浦委員 三浦です。

市民委員なので、市民の視点というのをこの計画の中にどうやったら反映されるのかなというふうに考えながら今日のお話を伺っていたんですけども、運営する立場の市役所としてはこの計画、このとおりで結構だという気はします。

ただ、これ遂行する上で、市民のニーズだとか要望だとか、あるいはクレームだとかいうのがどういうふうに反映されてそれを生かしているのかなというのがちょっと見えない、残念ながら。パブリックコメントを取ったりとかしていると思うんですけども、ちょっと言葉は悪いですけども、あれはアリバイづくりみたいなもので、その辺が何かもうちょっとうまく反映できないのかなというのが私のちょっと感想です。

それで、行政サービスを受ける立場からすると、例えば生まれてから乳幼児から小・中学校までの子供、それから高齢者ですよね。圧倒的に多分行政サービスを受けるというのは、その上下というんでしょうか。それで、いわゆる現役世代というのは、働き盛りっていうのかな。立川に住んでいても、働く場所が都内だったり、あるいは埼玉だったり、千葉だったりいろいろあると思うんですけども、寝に帰ってくるだけで、多分現役の頃って行政サービスを受けているという実感が多分あんまりなかったんじゃないかな。私自身は正直言うとそうです。ですから、そういうことも含めて、何でしょうね。市民の感じているリアリティーというのをこの計画の中に何とかして何かうまく生かしていただけないかなという気がいたします。ちょっと本当に抽象的なんですけれども、その辺は計画を立てる立場からすれば、いや、そんなのはもう織り込み済みだよということがあればちょっと教えていただきたいというところです。

以上です。

○金井会長 いかがでしょう。

○五箇野企画政策課長 企画政策課長です。

今回お示した案の部分のところなんですけれども、先ほど一番最初の議題のところでもお話の出た行政評価から積み上げてきて形にしたものとなっています。行政評価というのは、各種団体で自分たちの事業を振り返り、その中に事業をしていく中で市民の方からいただいた意見とか、そういったものは一定反映されているのかな。また、あと市民からのいただく声としては広聴の制度もございます。そうしたいただいた声については全て主管課が目を通して、対応について検討しているものとなっています。そういったものは行政評価のサイクルの中で反映されていると我々は考えているんですが、恐らくそういうものが見えないというのは、皆さんの立場の中ではいわゆる行政が考えたもの、悪く言えば無機質なものみたいに見えるところはあるのかもしれないですけども、一応流れの中ではそういうふうにやっているというところはご理解をいただきたいなというふうには思っております。

また、市民サービス、市民の皆さんの暮らしの中で、逆にもしかしてそれでもいいのかな。空気や水のように当たり前にあって皆さんの生活を陰で支えるのが行政サービスなのかもしれないなというふうに、それ1つの私の考え方でもあるので、そういった意味はというと、そこをどう皆さんに実感していただけるか。困ったときにああ、あってよかったなって感じてもらえるのが行政サービスの1つの在り方なのかなというのも考えの1つであるかなというふうに、すみません。これは私の意見みたいなので申し訳ないですけども、考えております。

以上です。

○三浦委員 ある部分は全くそのとおりだと思うんですけどもね。けれども、最後は一人一人に目がどこまで行き届いているかということなので、思いつきですよ。例えばいろんな情報を発信しているけれども、情報弱者を生まない立川の広報のやり方だとか、例えばね。あと

は、人が足りないんだったら、シニア世代を1,000人活用計画をみたいな、そういうスローガンを立てているんなことに取り組んでいくということであれば、何か血が通った計画になると思うんですよ。これだったら立川市じゃなくてもいいじゃないですか。何かそういうオリジナリティーというのを皆さんの知恵を絞り出してやっていただくとすごくうれしいなと、立川市民としてうれしいなと、すごいこれは感想です。

以上です。

○金井会長 ありがとうございます。

ほかにはいかがですか。

よろしいですか。

○西手委員 4ページの(2)のところで、ちょっとイメージとしてね、ちょっとよく分からないんですけども、一番上の挑戦しやすい環境の創出と、あと一番下の都市ブランドの向上、これはイメージとしてはどういうあれですかね。こういうようなことをつくっていきたい。都市ブランドというのはどういう視点からこれが出たのかということ、挑戦し続けるというのはどういうことですか。

○五箇野企画政策課長 企画政策課長です。

まちの活力を維持していくためには、そこで何か新しいものを生み出していく必要があるのかなというふうに考えて、それを生み出していける環境を整えるのが我々行政の1つの役割として考えていまして、そこで市民の皆さんが活躍をして、まちの活性化なりにぎわいをつくっていただくことによって、それが立川の魅力を高める。ひいてはそれが立川の都市としてのブランド価値を高めていく、そういったつながりというかサイクルをつくっていきなというふうに考えてのここでの記述になります。

○西手委員 もう少し、ちょっと抽象的で。例えばね、どういうことが挑戦しやすい環境の創出なのかどうか。これが結局全施策の横軸ということ出ていますので、そのイメージがよく、例えばどういうこと。

○五箇野企画政策課長 立川のまちで起業していただくとか、事業を起こしていただくとか、あとはお店を出すに当たって立川を選んでいただけるように、そこは人が集まるからこそそこにお店を出そうというふうな思いを持っていただけるのかなということで、そういうどっちが先かというのが、まちの魅力を上げることによって、そこで何かをしたいと思う人が増えてほしい。その例としては今申し上げたようなお店を出すとか、そこで事業、会社を起こすとか、そういったところをやるような環境をつくっていきなというところがここでの考えです。

○西手委員 それは、立川市という都市のブランドを向上させていくという、そういうこと。

○五箇野企画政策課長 それにつながるというふうに。

○西手委員 ちょっといまいち。

○下河辺政策財務部長 少し補足させていただくと、我々自治体も隣近所とあまり競争してはいけないのかなという考えはありつつ、ただやっぱり都市間の競争というのもあるかと思っています。今後生き残りをかけていくとかいう中では、やっぱり選んでもらう都市にならないといけないところが命題だと思っていますので、そういったところでは働く方、働くというのは企業で働く方もそうですし、起業されようとする方も含めて、皆さんチャレンジできる土壌を市としても用意していきたいというところの考えは持っております。それで、様々交流人口も含めて市に集まってきていただくことによってにぎわいが生まれてくるというところ、またそれが市の持続性にもつながっていくというところを考えておりますので、当然、子育ての施策だけをやっていけばいいということではなくて、立川という土地、交通の結節点が言わ

れていますけれども、その周辺の商業地の発展というところはできる限り維持をしていかないとそのまちの魅力が落ちてってしまうところもありますので、そういったブランドというところの維持向上も含めて、集まっていただき、また立川でチャレンジをしていただくという土壌を考えていくというところでの内容となっております。

○西手委員 多摩関係ではやっぱり八王子を超えてね、立川がいろんな面でいろんな魅力が出てきているかなと思うんですよね。その中で、さらにそういう今言ったような環境、調整をしていくような環境とブランドをさらに向上していきたいという、そういうことですかね。

○下河辺政策財務部長 やっぱり魅力については発信し続けないと、住んでいる方もほかの魅力的なところに移って行ってしまうと。そういうふうになってしまうと、当然我々税収を基盤に動いておりますので、お金がなくなればサービスも低下していくというところ、また企業についても、今ある企業に加えて、当然大きな企業来ていただければ言うことないんですけども、それ以外にも立川という地盤で起業をしていただくということによって、それは当然法人税収にもつながってきますので、そういう方々がたくさん集まってくる、商業者も含めて。市民も集まってくるということであれば当然地価にも影響してくるというところでは、露骨な話ですけども、税収が維持できるプラス伸ばすことができるというところがまちの発展につながっていくということに考えていますので、そういう意味合いがあろうかなと。

○西手委員 そういう意味では、ソラノホテルなんか、公園の前のあんなのがどんどん。あと、アリーナですか、ああいうところでスケートができたとか、そんなようなところをどんどん環境づくりをしていくというようなこと。

○下河辺政策財務部長 そうですね。一方ではそういういわゆる一般の市民という、立川市以外の方も含めてですけども、魅力を感じていただいて集っていただくというところも、それが人が集まっているということは確かにその土地の魅力にはつながっていきますので、それを見てさらに人が増えていくと。ひょっとしたら立川というところはいいところなんじゃないかなというところで調べていただいたときに、子育ての施策が充実をしているですとか、いわゆる働く環境が整っている、起業もしやすいということになったときに、それぞれの方々が移ってきていただくということが起これば、我々としては先ほどの話につながるような状況になるんだなという。単純に観光施設を持って人が来ていただくだけでいいということではなくて、さらにその先を見据えた形で考えている策と。

○西手委員 そういう点から見れば、北側の砂川地域とかね、そちらはどちらというところと農業というか、それだけじゃなくてももう少し砂川のほうもですね、立川の中の砂川とかね、そういう魅力が出てくるような、そんなような環境づくりみたいなものやっていく必要があるのかなという感じはしますけれどもね。立川駅の周辺だけじゃなくてね。

○下河辺政策財務部長 そうですね。もちろん、私今一例として立川駅の周辺の商業施設というところを挙げましたけれども、当然立川の中にはエリアごとにそれぞれ特色が割とはっきりと出ておまして、砂川の地域は農産物というところは非常に立川盛んな地域でもありますので、ブロッコリーが都内の生産では一番だったり、トマトなんかも有名なところでもありますし、そういった魅力、またそこは発信しつつ、住んでいただくには、やはり駅周辺だけではなくて、砂川のエリアというところも含めて住環境整備というところはつながってくるかなと思っています。

○西手委員 分かりました。そういうところにも力を入れてもらいたいと思います。

○金井会長 よろしいですか。

ほかの方、誰かありましたら。

○佐藤副会長 今ちょっと起業の話が出たので、三鷹とか有名になりましたけれども、あそこ

産業センターを使って若い人に説明して、いろんな企業に対する支援とかやっただと。立川にもそういうインキュベーターみたいなものを持っていらっしゃるんですか。

○下河辺政策財務部長 立川自体、市がということでは現状はやっているものはないですね。どちらかというと、役割分担というところでは立川商工会議所がありますので、商工会議所と連携したような形で実施をしていたり、あとは先ほどの魅力の話にもつながりますけれども、東京都さんが割と就職支援みたいな形での施設を造っていただいたりとかというところは進んでいますので、そういう意味では、創業支援という取組は立川の商工観光課のほうでもやっていますけれども、一連のそういった創業から起業に至るまでのいろんな仕組みは地盤としてはできつつあるのかなというふうには思っています。

○金井会長 ほかにはいかがでしょうか。

ちょっと確認なんですけれども、この4ページですね。つまり政策を展開する上で重視する視点というのは何となく抽象的で、事務局からの回答も何となく、思いつきなのか、本当にやるつもりなのかよく分からないような内容なのですが、これは2026年度、令和8年度の予算編成に向けて、こういう視点で各課は施策を出してくれという、そういうスタンスのものかということなんです。それとも、具体的に既に何かやりたいということはこれ背後にあるんですか。

○五箇野企画政策課長 基本的に、この先にその各取組項目というものをある程度具体的に示して、それは先ほどの行政評価のサイクルの中で各部門から上がってきたものを、ボトムアップで上がってきたものについて、こういう方向でそれぞれの子育てであったり教育だったり環境だったりというところを個別の書き込みはこの先にあります。なので、ここはどちらかというとその全体包括しての方向性を示す部分というふうにご理解いただければというふうに思います。

○金井会長 今の段階では具体的に何をやるということはこの背後に実は隠されているというわけではなくて、まだ固まっていないということですか。

○五箇野企画政策課長 そうです。これから固めていく段階というところですよ。

○金井会長 ということは、今、先ほど事務局が答えた話は本当に施策になるかどうかはまだ分からなくて、ひょっとしたらなるかもしれないということも政策財務部あたりは考えているということが各課はある程度分かるということですね、この議事録を見れば。

○下河辺政策財務部長 ただ、行政評価で全体の事務事業を評価している中で、来年度、令和8年度に向けて重点となるような案件というのを抽出して、それをピックアップしてまとめているのがこの案になりますので、そういう意味合いでは、重点に係るものについては来年度の予算要求が当然上がってくるという中にはありますので、それは予算編成の過程で内容を精査していくというところの作業はありますけれども、基本的には方向性として出てきている。ボトムアップで事務事業評価から重点として上がっているというところで、来年度の予算につながるものという形で考えていただければと思います。

○金井会長 ということは、この4ですね。5ページの行財政改革の取組は、これはもうちょっと具体的に行政評価からこういうことをしたいというのが背後にあるということでもよろしいんですか。学童保育所については、もう名指しで出ているので、これはやる気だということですが、インフラ整備だと何となくぼやっとしていますよね。行政手続のオンライン化というのは何やるんですかという話は分からない。公有財産の売却を含めた利活用、具体的にどこの土地の話なのというのは背後にあるのか、それともないけれども、取りあえず方向だけ出したという状態なのか、どこら辺なんですか。

○野口改革推進課長 改革推進課長です。

こちらの行財政改革の取組につきましては、どういったところまで具体的に出すかというのは今後の調整が必要になってくるところだと思っています。当然、市民への丁寧な説明というところもございますので、こちらに出すというところにつきましては少し慎重な判断が必要かなというところですので、例えば金井会長がおっしゃいましたように、学童の整備については、ここは明確にもう決めているところですので、ここはお出しできるとは思いますが、ただ、1つを具体的に出して、ほかのぐると全体的に少し抽象的な表現をすると全体バランスがおかしくなってしまいますので、そこはちょっと全体の状況を見まして調整を今後庁内でしていくという内容になると考えております。

以上です。

○金井会長 ということだそうでありますので、ここで皆さんが言った意見が来年度の予算に反映するかどうかというのは楽しみにして。

ほかにはありますでしょうか。よろしいですか。

大体議論出尽くしたと思いますので、それでは、この議題の4はこの程度にしたいというふうに思います。

これで予定された議事は全部終わったということになりますので、3のその他というところではありますが、何か事務局からはございますでしょうか。

○野口改革推進課長 長時間にわたり誠にありがとうございます。

この後議事録の確認作業が残っておりますが、皆様のおかげをもちまして、本日の審議で任期である2年間の審議会を無事終了することができました。誠にありがとうございます。

なお、昨日よりホームページ等で市民委員の募集を開始しておりますが、10月より新たな任期として引き続き行財政問題審議会の開催を予定しておりますので、市民公募の皆様におきましては改めてご応募いただければと思っております。学識の皆様には、ご多忙とは存じますが、後日改めて委員継続のお願いをさせていただければと考えております。ぜひ委員の継続をよろしくお願いいたします。

ここで市側を代表しまして、市長公室長より一言ご挨拶を申し上げます。

○小宮山市長公室長 本当に2年間という期間でいろいろ活発なご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。

私どもも、皆様方の御意見、そういったものをむしろ受け止めるとともに、それをまた身にまといながら、市民への説明ですとか、それから議会に対しての説明ですとか、そういった上で臨んできたつもりでございます。ですので、そういった意味では我々行政側と行財審というこの審議会というものを共に行政運営をしていく仲間だというふうに思っておりますので、今課長のほうからもありましたけれども、今後とも引き続き何らかの形で市行政のほうに関わっていただくと非常にうれしいというふうに思っております。本当に2年間ありがとうございます。

○野口改革推進課長 ありがとうございます。

定刻の時間を過ぎておまして大変恐縮ではございますが、ここで委員の皆様から一言ずつご挨拶を頂戴できればと思っております。

○金井会長 どういう順でやる。黄委員から。

○野口改革推進課長 はい。

○黄委員 お世話になりました。どうもありがとうございました。一言で、すごく大変勉強になりました。こういう審議会は初めてということで、しかも立場的には、自分が立川市民で、こういう審議会に対して、やっぱりこういう計画に対して、一市民の立場からこういうところはやってほしいとかいろいろ意見を出しました。一方、逆に自分も市役所の職員なので、そう

いう質問されちゃったらちょっと答えにくいとか、あまりデジタル化し過ぎちゃうと、じゃデジタル弱者はどうすればいいのとか、難しいなというところがありました。ただ、目標は恐らく1つなので、こちらからもそちら側もそうなんですけれども、ますます立川市がいい都市になるという目標は一緒なので、ますます立川が発展することを早く1日も見たいので、ぜひよろしくお願いします。どうもありがとうございました。（拍手）

○浅野委員 委員の浅野です。

2年間委員をやらせてもらいまして本当にありがとうございました。生まれて初めてこうした自治体の委員やらせていただきまして、こんなに立川に課題があるんだということが改めてよく分かって大変勉強になりました。また、有識者の委員の先生方からは毎回いろんなお話を聞かせていただいて、本当に毎回目からうろここというか、本当に勉強になりましてありがとうございました。あと、市役所の職員の皆様ですね。こんなに立川のために熱心に、熱い思いを持って取り組まれているんだということが改めてよくその熱意が伝わってきて、本当に感謝と尊敬の念でいっぱいになりました。これからもお体に気をつけて立川市のためにどうぞ頑張ってください。ありがとうございます。（拍手）

○藤原委員 市民委員の藤原です。

この審議会というのは、市民が4人もいて、それをよく本当にうまくまとめていただいた会長さん、副会長さん、本当にありがとうございました。おかげさまで、何でしょう、何か知らないけれども、形というんですかね、まとまっているところは不思議だなと思うぐらいでございまして、本当に。そして、有識者の皆様方、本当にいろいろなご意見といいますかね、示唆とご意見いただきまして、本当に僕らも参考になりました。私ももうリタイアした身分なんですけれども、本当に何ていうか、生きがいじゃないですけども、物すごい刺激を受けまして、この先健康に、知的にも健康でいたいなと思っています。それを受けて、市の市役所の皆様、特にですよ、部長、課長をフォローする係長の方の、何ていうか、優秀さというんですかね、それを物すごく感じまして、こういう若い方がもう市役所にいらっしゃるということで、立川市に住んでいればこの先安心だなと思っている。私の終の住処として選んでおりますので、今後ともまたよろしく願いいたします。ありがとうございます。（拍手）

○三浦委員 三浦です。ありがとうございました。

一番最初にこの委員会にお世話になったのは約20年前だと思います。2006年から10年ぐらいでしたでしょうか。まだ市長が青木さんの時代です。断片的に思い出すのは、看護学校の問題だとか競輪場だとか、そんな時代でした。それで、行財政問題審議会が多分始まってすぐだったかもしれませんけれども、市役所の中でもやっぱりかなり熱がありました。今ないというわけじゃないですよ。第三者委員会とかいうのもあったし、だから、やっていることは全く変わっていないですけども、やっぱり時代が変わったな。何よりも自分自身が20歳年を取ったなということで、何か感慨深いものがあります。でも、やっぱり連綿とつながっていく、その連続していくものがやっぱり行政としてとても大事だと思いますので、熱い熱を持って取り組んでいただければと思います。どうもありがとうございました。（拍手）

○笹浪委員 笹浪です。

一番印象に残っているのは、任期中にコロナがあって、リモートというんですか、あれにやったんですけども、皆さん最初だから、私はもう全然慣れていないので、慣れなくて、リモートで参加してくださる方がどう見ても不審者にしか見えないような、そういう時代を経てだんだんきれいな映像になってきたなと思ったけれども、必要なくなったのでよかったなと思います。

あと、それと女性は圧倒的に少ないので、ここの前の役職に来られる女性いないんだよって

言われるのはもう百も承知ですけれども、後ろのほうに、何だろ、オブザーバーというか傍聴者というか、そういう名目でもいいですから、場数を踏むことが大切なので、参加させてください。お願いいたします。お世話になりました。（拍手）

○曾我委員 曾我でございます。

私たしか3期目だと思いますけれども、私立川市民ではありませんので、逆に立川の問題点だとか課題、こういったものを第三者的に見るような、そんなような会議ではなかったかなというふうに思います。やっぱりどの市にも共通するような課題もあるし、あるいは立川独自の課題もあったということでいろいろ勉強させていただきました。自分が現役の公務員の時代には聞いたこともないような言葉がどんどん出てきて、ちょっとついていけるかなというふうに心配したんですけれども、皆さんのフォローで何とかついていくことができました。いろいろ勉強させていただきました。ありがとうございました。（拍手）

○西手委員 自治会の自治連の方からの代表というので参加させてもらいましたけれども、本当に非常に難しい問題を非常にいろんな角度から検討できたというふうなことだったのかなと思います。それで、いずれにしても、いろんな課題が多くあるなというね、もうこの2年間ではやり切れないんじゃないかなというね、そんな思いもありましたよね。いずれにしても、この委員の方については皆さん優秀な方ばかりでね、私を除いて。だから、ここです、もう全員定年になっている方が多いと思いますけれどもね、市の職員として採用していただくというふうなこともいいんじゃないかなと思います。よろしくお願いします。

以上です。（拍手）

○朝日委員 今期もありがとうございました。私も継続だったんですけれども、今期は特に総合計画に携わらせてもらったのが重なっていて、それで結構よくまちの行く末をどういうふうに経営としてやっていくかというところの観点が大変勉強になりました。改めてですね、もうちょっと裏方ですという位置づけ、こういう経営とか財政だったり人材だったり定員だったりというところって裏方というイメージがあったんだけど、どんどん政策のほうとくっついていって近くなっていて、その点はすごくいいなと思いました。

あと、今日もなんですけれども、私立川市民じゃないので、いろいろと小ネタをいただいたり、あと今日もすごく思ったのは、こういった何ていうんですかね、行政の枠組み的な話をどういうふうに受け止められるかというところ、さっきの行政評価でいろいろ伝えているはずなんだけれども、全く伝わっていないというか、そういう意図では伝わっていないとか、何かそういうところがずっとあるところなので、何かそういうところもこういう場じゃないとなかなか直接的にはそういったギャップが分からないところなので、何かもう本当にいろいろと立川市さんに今回も勉強させていただきました。ありがとうございました。楽しかったです。ありがとうございました。（拍手）

○佐藤委員 改めまして、一橋の佐藤です。

先ほど三浦さんは20年っておっしゃって、私も何年関わっているんだらうというのが分からない。もともとこの庁舎が移る前から参加していた。ひょっとしたら20年近いかという気がしたので、そうなる私も20年を取ったんだということを実感する次第であります。

私、普段は国の仕事をしてはいますが、やっぱりこういう自治体の現場の話が聞けるといっては私にとっても非常に有意義な機会、逆に考えると、国が言っていることと自治体の実態は合っていないなと、目線が合っていないな。悪いけれども、中央官庁は分からないで口出しているなというのがよくこういうところから見えてくるかなという気がします。私はもともと学者でもありますので、そういったところをうまく隙間を埋めていくのが私の仕事かなというふうに思っております。

さっき継続と言われたので、じゃさよならというわけにはいかないかもしれないんですけども、非常に、取りあえずまずは2年間お世話になりました。ありがとうございました。（拍手）

○金井会長 いつもながら大した仕事をしない会長でありまして、答申や報告書が出来上がるのは、委員の皆さんがいろいろ意見を言うてくださって、それを事務局がまとめるからということでもあります。いつも議事録案を後で確認するんですけども、私はいつも「はい次」「はい次」しか言っていないと自分でも思っていました、これだったらAIでもできるかなという気がしているわけではありますが、私自身はそこでいろいろ聞いて耳学問をさせていただいていると思います。

三浦さんとか佐藤先生がおっしゃったように、私も何か結構昔から関わっているなという気がしております。ただ、最初はまちづくり研究共同事業とか、小町さんというちょっと伝説の職員がいて、「こまち研」というふうに言っていた頃からの関わりで、その後まだ徳丸さんが課長でない頃に依頼の連絡を受けたという記憶もあります。その後、徳丸さんもあっちこちの課長をやっていて、何かいつの間にか昇進していったような気がします。要するに、単に年取っただけだという気がしましてですね、私も随分と年取った。実は、最初は行政評価第三者委員会というのがあって、そのときの提言を基にこの取組事項のシステムをつくっているという形なので、そういう意味ではどうやって運用されているのかなというのを見てきていることもできたかなというふうに思います。

そう考えると、立川市のためにはそろそろ我々ロートルは交代して、ちゃんと若手を探してこないといけないのではないかという気がする点もあるので、ぜひちゃんと次の人を探せるようにしないと、突然誰もいなくなったとなってしまいます。あるいは、そのままみんな20年、これが30年、40年になるというのは立川市の活力という点ではよくないかと思いますので、将来にも向けていろいろ考えていただければと思います。

ただ、別にこういうことを言うと、おまえは何かもう八王子市民だから、ここに関わる気がないのかと。そういうつもりはないので、そこは誤解しないでいただければと思うんですけども、三浦さんの話からきて、お互い何か顔年取ったよなというですね、そういう実感だけがあるので、確かにどこかで若返りも必要かなという気がします。笹浪さんが若手の女性の方をもっとぜひ参加する機会をとということがあって、それもあって次世代に向けてもぜひやっていただければなと思いつつながら、それに向けて橋渡しをしていければなというふうに思います。

ということで、今回も何とか任期を終えることができそうだということで、これもひとえに皆さんのお力のおかげということでもあります。改めて御礼申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。（拍手）

午後8時30分 閉会